

かかしの里安全活動隊（青森県）

最初の発表者ということで、非常に緊張しております。私は、青森県西津軽郡鱒ヶ沢町から来ました、かかしの里安全活動隊員の黒滝と申します。そして隣に居るのは、同じ活動をしている一戸と言います。どうぞよろしくお願いいたします。



活動地域の紹介

それではさっそくでございますが、私たちかかしの里安全活動隊結成のいきさつ、活動の内容等についてご紹介をさせていただきます。初めに私たちの町、鱒ヶ沢についてお話ししたいと思います。

わが町は青森県の西方に位置しており、北には津軽半島、東には津軽平野、西には日本海、南には岩木山や世界自然遺産の白神山地を抱えた自然豊かな町でございます。町の人口は約1万1,000人と小規模ではありますが、豊かな自然を生かした水産業や農業、林業のほか、岩木山をはじめとする白神山地や十二湖、そして日本海に沈む夕日の絶景など観光の盛んな地域でもあります。



また、町では古くから相撲が盛んで、現在、大相撲の解説をしております元小結舞の海の古里でもあります。そのほか有名どころとしては、「天才！志村どうぶつ園」でも放送され話題となりました、ぶさいくではありますが何となくかわいい犬、わさおも安全・安心のまちづくりに一役買っております。ご覧の画像は、観光客を出迎えるわさおの看板と春のキャンペーンに参加した町のゆるキャラ、デカわさとのワンシーンです。

団体概要

次に、私たちかかしの里安全活動隊の発足の経緯についてお話ししたいと思います。ご覧いただいております画像は町を流れる中村川と、その後ろに標高1,625メートルの霊峰岩木山がそびえる写真です。日本海を眺める中村川の流域には14の集落が点在しております。かつて中村には明治20年ごろに設置された120年の歴史を持つ中村駐在所があり、地域の安全を支えておりました。管轄する範囲は岩木山の麓まで面積約117平方キロメートル、人口約1,700人、世帯数は約670世帯を受け持っていたようです。



しかし、120年の歴史ある中村駐在所が時代の変遷に伴い、平成16年10月県警本部が発表した交番、駐在所の再編プランに該当することとなり、平成17年3月末をもって廃止することを余儀なくされました。当時、誘拐や殺人などの凶悪事件や、オレオレ詐欺などの急増、地域の連帯意識の希薄化による不安に加え、駐在所廃止の話で地域住民はなおいっそうの不安感が募りました。

しかし、不安感を助長させる毎日では何の進歩も躍進もございません。そのため、14町内会が一堂に会して廃止後の町内における犯罪を視野に、防犯活動等についても話し合いが持たれました。その結果、地域の安全は自ら守ろうという結論に至りました。「きばらずに、まずできることから」をモットーに、何よりも中村14町内会の安全で安心して暮らせるまちづくりを目指し、地域に根ざした活動をやっといこうということになり、高い志を持つ地域住民69名が立ち上がり、平成16年12月5日に、かかしの里安全活動隊を発足させました。

また、発足の翌年には、消防などとの連携を密にしながら犯罪防止だけではなく、火災予防と交通安全に関わる活動や地域住民への広報活動、危険箇所の環境点検、子供やお年寄りの保護など住民の安心実現のためにさらなる活動を図ってまいりました。



いよいよ駐在所が廃止となった平成 17 年 4 月に隊員へ委嘱状が交付され、併せて第 1 回目の全体会議が開催されました。そしてこの年、青森県では唯一警察庁の地域安全・安心ステーションモデル事業に選定され、決意も新たに強固にしたところです。ご覧の画像は、広報活動で大型看板の設置作業をしているところです。



次に、かかしの里安全活動隊の名称の由来についてお話ししたいと思います。当初、いまはやりの横文字なども考えましたが、高齢者の多い土地柄でもあるので、一目で誰もがわかる名前がよいということと、中村では平成 14 年から地域を挙げてかかしの里づくりを進めており、ほのぼのとした印象からかかしという名が組織のシンボルにふさわしいと評され、「かかしの里安全活動隊」と名付けたものであります。



私たちのシンボルマークがこれです。このマークは、活動隊結成に際し、隊員が考えたものです。かかしの顔によく使われる「へのへのもへじ」の代わりに、「かかしのさと」というかな文字を使って顔を表現したものです。

活動(事業)内容・特長

次に、活動内容についてお話しします。まず、日ごろから行っている活動として1つ目は、青色回転灯防犯車を使用したパトロール活動であります。現在、3台を保有しており、これを使って計画的に地区の防犯パトロールを実施しております。

2つ目は、地域の巡回活動であります。各町内会において徒歩などで巡回活動を行っており、併せて安否確認のため、一人暮らし宅や高齢者宅などに対して個別に訪問を行っております。



3つ目は、児童・生徒の巡視活動であります。以前には中村地域にも学校が2、3校あり、それぞれの町内会で子供たちの巡視活動を行ってきました。平成23年に鱒ヶ沢町内の学校に統合され、児童・生徒はスクールバスでの通学となりました。このため現在では、スクールバスの停留所付近において巡視活動を行っている現状にあります。

次に、季節ごとの活動についてお話ししたいと思います。まず春には、新入生に対しての通学指導と犯罪被害防止活動を行っております。スクールバスで通学する新入生に対してバス停から自宅まで一緒に歩くなどの通学指導や、交通事故の防止活動、併せて声掛け事案、連れ去り事案など子供に対する犯罪被害の防止活動も行っております。また、春と秋には安全・安心まちづくり旬間が開催されますが、その旬間中に実施されます推進大会、およびパトロール出動式にも毎回参加して、その際、青色回転灯防犯車を活用して、防犯気運の向上に努めております。



中村地区では稲作をはじめ、アスパラガスやメロン、スイカなども作付けしている農家が多く、特に5月、6月のアスパラガス収穫時期は、山菜取りの時期と重なることもあり、心ない人のためにアスパラガスが盗まれることがありました。そのようなことから活動隊は、さっそく農作物盗難防止の看板を作り、主要箇所10カ所に設置し、警察署と連携を取りながら盗難防止の呼び掛け強化を図っております。

中村地区では毎年8月から9月の間、豊作祈願と地域の安全を願って、住民が手作りしたかかしを主要道路の沿道に展示する催しがあります。そのため、活動隊では高さ6メートルほどにもなるジャンボかかし作りに参加して、出来上がったかかしに防犯証文の書かれた大型たすきを掛けるなどして、防犯や交通安全の呼び掛けをしております。また、毎年11月から12月にかけての年末には、金融機関に対する巡回活動を行っております。昨年、今年と全国的に特殊詐欺事件が増加傾向にあり、青森県でも例外ではなく、県内全体では増加傾向にあります。このため金融機関に勤務する人への年末における警戒の呼び掛けや来客へのチラシ配布などして、年末年始の特別警戒に貢献しております。

ほかに、冬期間における活動も行っております。岩木山麓に所在するナクア白神スキーリゾートは、宿泊施設も整った青森県最大規模のスキー場であり、このスキー場において冬期間も随時、利用者に対してスキーやスノーボードなどの盗難被害防止の呼び掛けを行っております。また、一人暮らし宅や高齢者宅などを巡回して相談事などを受けた際には、関係機関へ連絡を取るなどし、生活のサポートも行っております。また、状況を見ては屋根の雪下ろしや、煙突の取り付け作業も行っております。



活動隊の活性化と成果

次に、活動隊の活性化やスキルアップのための活動についてお話しいたします。活動隊発足当時から連携の強化を図るために、情報交換会や視察研修などを行っております。これまで秋田県の防犯協会との情報交換や、警察本部、航空隊、機動隊などの視察研修を実施しております。活動隊では、必要に応じて役員会や全体会の会議を開催しております。特に全体会には町長をはじめ、地元選出の県議会議員や町議会議員、警察署長を招き、さまざまな情報等をいただきながら今後の活動方針の参考にしているところです。



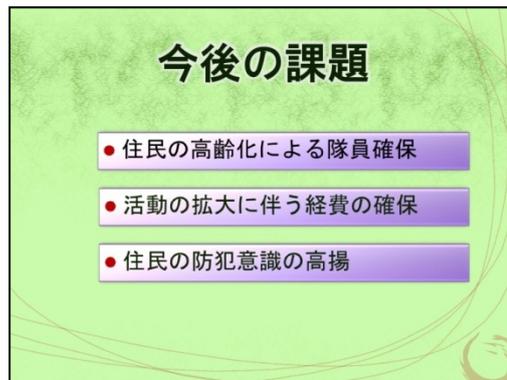
次に、ユニホームについてお話しいたします。ご覧の画像にもありますが、きょう、私どもが着用してまいりましたこれが活動隊のユニホームです。黄色が全体的なカラーで、背中にはかかしの里安全活動隊のシンボルマークがあしらわれております。春に農作物盗難防止の看板を設置し、継続してパトロールを行ったことで農作物の被害が非常に少なくなったと感謝されたこと、活動を通して町内会同士のつながり、行政とのつながり、そして警察や関係機関とのつながりがよりいっそう深まり、信頼関係が築かれていることがとても大きな成果であり、財産だと思っております。特に昨年9月に警察庁長官賞をいただき、決意も新たにいたしましたところがございます。



今後の課題

次に今後の課題であります。1つ目は、住民の高齢化による後任隊員の確保です。高齢化に伴い健康に難点を抱える隊員もあり、行動力のある活発な後任隊員を確保していくことが非常に難しい現状にあります。2つ目は、経費に関することです。現在、毎戸負担金100円と農協からの支援金により運営しておりますが、今後の大きな課題として取り組む必要があると考えております。3つ目は、防犯意識の向上です。犯罪や事故の被害を受けないように住民一人一人が防犯に対する意識を高めることが必要だと思います。

以上で青森県かかしの里安全活動隊の発表を終えさせていただきますが、これからの私たち活動隊は発足当時の姿勢のとおり、地域の安全は自分たちで守るために、きばらずに、まずはできることから行動していきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。



質疑応答

●質問 先ほど活動経費の確保が課題とおっしゃっていましたが、年間の活動予算はどのくらいですか。

○回答 毎戸負担金100円、世帯数が現在460件ほどですので4万6,000円、それに加えて農協からの支援金として毎年3万円ほどいただいております。したがって7万6,000円くらいです。これで何とか運営しています。